



# 国労せんだい

No. 2709  
2015年11月20日  
発行責任者 大沼 元  
編集責任者 武田 昌仙

# 大災害を風化させない取り組みを 大阪共闘が被災地を視察



石巻市大川小学校前で被災状況の説明を受ける視察団

大阪交通運輸労働組合共闘会議（略称：大阪交通共闘、南修三議長）による、「大規模災害における公共交通再構築の現状調査」の現地調査が8月25日、27日、宮城県と岩手県にかけて行われた。今回の調査の趣旨は、東日本大震災から4年半が経過した公共交通の復旧状況や今後の課題について調査するというもの。

女川・野蒜など視察

この調査に対する協力要請が、国労西日本本部を通じて仙台地方本部にされ、8月27日の随行と案内を担当することとなり、調査団（团长：関西大学社会安全学部・西村弘教授、タカシ・港湾労働者等総勢10人）の対応を中島地本副委員長、佐藤勝・千葉弘両執行委員に加え、被災地の状況に詳しい岩淵正則氏（被災当時

次は女川駅に訪れ、駅舎を中心とした再建の状況をそれぞれ目で確認し、続いて旧野蒜駅では、津波で被災した当時の状況を撮影した写真を見学。高台に建設された新野蒜駅からは、

大阪交通共闘は、陸・海・空での規制緩和が押し進められる中、利用者の安心・安全と労働条件の改善に向けた宣伝・行動や行政交渉なども展開し、海外（韓国・ベトナム）も含めた交通事情調査にも取り組んでいる共闘会議である。

気仙沼駅前に9時に集合した一同は、志津川を訪れ多くの小学生・教員が犠牲になった大川小学校の祭壇に焼香。

共闘会議の皆さんには、ハイブリット車両で仙台駅に移動してもらった。

その後の地方本部での意見交換では、共闘の方からは、「テレビ等では見えていたが、現地に來るとこんなもな状況であったことが分かる」、「東日本大震災を受けて、西日本でも紀勢線では避難経路の訓練を始めている」、「BRTで安全が守られるのか」といった意見があり、また西村教授は、災害を風化させない取り組みとして、災害時に備えた訓練は、常に新しいものを取り入れることが重要であると述べた。

地方本部からは、「11・3・11の記録（国労仙台地方運輸協議会作成）」の冊子を配布し、当時の旅客に対する輸送指令の不十分な対応や状況が赤裸々に綴られている内容も冊子により報告した。最後に大阪交通共闘会議南議長は、「大災害を風化させない取り組みが私たちに求められており、今後も発生が予想される災

10・13 第1回地方執行委員会  
10・25 第62回アスベスト対策委員会

## 仙台労基署が是正指導

### 賃金の現金受給者への取り扱い

賃金を現金受給しているA氏が10月26日、支給箇所である宮城サポートセンター（以下宮サポ）で勤務終了後受給しようとしたが当日賃金を受給できない事象が発生した。

A氏は9月末日まで出向しており、出向期間は支社の事務センターで受給していたが、現場復帰したため10月の支給箇所は以前通り宮サポである旨の書面（左記枠内表記）を会社から受け取っていた。

書面には支給箇所と支給時間等が記載されていたが、本人は以前も受給していたため、時間等については特段の確認はしていなかった。

10月の賃金支給日である23日、本人は所要のため年休で受給できず、週明けの26日の勤務終了後に受給しようと考えていた。ところが職場では、「時間外支給の扱いは、支給日当日のみ」と書面の提示と告知をされた。しかし現場も当日の年休は知っていたため、委任状での代理受給を宮サポに問い合わせたものの、その回答は、「本人以外は平成19年10月23日文書仙字第428号（要旨）支給期間は支給日から5日間（土日は対象外）支給時間は支給日が13時から17時30分、支給日の翌日から17時から17時30分（時間外となる場合は事前に連絡を。また対応は18時30分まで）上記時間外の対応は支給日のみ



地方本部における意見交換会の様子

不可、供託になれば可能」というものであった。やむを得ず、日勤勤務のA氏は、26日の退勤時間前の30分間を「賃金受け取りのため」という理由で欠勤願いを申請したが会社は却下した。

こうした扱いに対してA氏は、これでは賃金受給が不可能であるとして、仙台労働基準監督署に出向き、「交番は日勤指定であり、受給可能な時間がない」、「欠勤願も拒否され支給するに年休しかない」、「5日間が経過後の支払い方法が明記されていない」、「病欠欠勤などの場合支給されなくなる」と相談した。

労基署の監督官は、JR仙台支社の平成19年の取り扱い文書に対する見解として、「賃金は支給日には労働者に届けられていなければならぬ」、「賃金の支払い期間を5日間と定めているのは問題」、「賃金受給のため年休を取得するのは疑義がある」とした上で、「仙台支社に事情を聞くが、この内容は問題であり指導する」とした。さらに監督官から「来月から変更になると思うがかわらない場合は連絡を」と言われ、「変わった場合は文書で知らせるよう指導を」と要請し、「了解した」と返答を受けた。

なお上記時間外の対応の表記が、配布された属人により違つことが発覚。現在調査を進めている。【昌】

10・26 各地方・地区本部組織部長会議  
11・7 第20回国労東日本本部皇居一周マラソン大会

# 自慢の腕競い合おう

## 地本ゴルフ大会

地方本部は10月9日、仙台南ゴルフ倶楽部（宮城県柴田郡村田町）で第16回地本ゴルフ大会を開催しました。

当日は絶好の秋晴れに恵まれ、35人のゴルフ愛好家がプロ顔負けの腕前を競い合い、白熱した競技が展開されました。

開会式での大村名誉実行委員長が順次スタート。ラウンドでは、豪快なドライバーショットでドラコン賞をゲットした人や、悪戦苦闘してグリーンに辿り着いた人、また傾斜グリーン中腹のカップ位置に苦慮した人など、個性を活かした充実した競技となりました。



見事優勝した小野さん（右）と大沼委員長

そして見事大会を制したのは、小野孝一さんです。（グロス85・ネット70・6

仙台南宮城野運輸区）小野さんは「難しいグリーンとカップの位置でしたが、コースとメンバー、少しの運に恵まれ優勝できました」と感無量の様子でした。

なお優勝した小野孝一さんと準優勝の菊地浩喜さん（小牛田運輸区）、小林秀男さん（郡山設備）、村上晃一さん（仙総所エルダー）の4人は、16年開催予定の第4回東日本本部杯ゴルフトーナメント仙台地本代表としての出場権を獲得しました。

閉会式では大沼委員長から「今年は地本内で若い仲間3人が国労加入。英断に敬意を表している。今後1人でも多くの加入が実現できるように引き続き奮闘願いたい。また職場では業務委託拡大、関連労働者の労使関係づくりやエルダー先の労働条件改善等々、国労を取り巻く課題は山積している。加入した青年労働者と共に国労運動の前進と組織強化拡大を実現しよう」と挨拶があり、団結頑張ろうで運動の前進を誓いあいました。（弘）

### 結果報告

上位入賞者（敬称略）



参加されたみなさん、お疲れ様でした

- 優勝 小野 孝一さん 仙・宮運輸区
- 準優勝 菊地 浩喜さん 小牛田運輸区
- 3位 柳田 敏幸さん 仙総車体
- 4位 村上 晃一さん 仙総台車
- 5位 伊藤 正雄さん 郡工車体科

### 退職のお知らせ

9月30日付

- 村上 弘記さん 郡工装置科（セントラル警備）
- 浅野 良市さん 郡工装置科（セントラル警備）
- 赤坂 健治さん JR東北工事事務所（JRコンサルタツツ）
- 佐藤 博光さん 東北工事事務所（JRコンサル嘱託）

### 岡根 悟資さん 仙台信通区

- 阿部 正夫さん 小牛田保線区
- 高橋 和彦さん 岩沼駅連合（TSS槻木駅）
- 星 修児さん 郡山設備（仙建郡山）
- 佐藤 清さん 仙総運転（Jテック幹総）

### お悔やみ

9月27日

- 五十嵐 隆敏さん（61） 仙総台車
- 10月1日 千石 敏彦さん（56） 小牛田駅連合
- 斎藤 久文さん（60） 山形連合
- 心よりご冥福をお祈り致します

### 仲間の異動

10月1日付（出向）

- 新屋 昭一さん（簡苦） 仙台車セ Jテック東
- 赤間 敏幸さん（簡苦） 仙台車セ宮城野派出
- Jテック宮城野派出
- 藤田 香さん（簡苦） 島山 勉さん（簡苦） 青沼 寛明さん 中鉢 悟さん
- 阿部 昭彦さん 後藤 武志さん 佐藤 勝雄さん 菊地 浩喜さん 佐竹 裕一さん 小牛田運輸区
- Jテック小牛田
- 宮本 広美さん（簡苦） Jテック東 仙台車セ
- 首藤 長俊さん 矢本駅 Jテック矢本駅
- 菊田 幸治さん 菅野 次男さん 須賀川駅 TSS須賀川駅
- 五十嵐 新治さん 大内 美智男さん 佐藤 幸男さん 二本松駅 TSS二本松駅

## 次年の課題克服へ 東日本マラソン大会



チームの連帯感はより高まってきた

11月7日、東日本本部恒例の駅伝マラソン大会が開催された。今回で20回を迎えた歴史ある大会は、長野地本の3連覇という偉業で幕を閉じた。

仙台地本は昨年準優勝を果たした仙総支部の選抜ランナーで編成したAチームと山形県支部の家族などの混成によるBチームがエンタリ。

結果を先に言えば、Aチームが10位、Bチームはエンタリ最下位の15位となった。Aチームの敗因とすれば、やはり新陳代謝がスムーズに運んでいないことに尽きるだろう。

故原田靖やキャプテン高橋の御息を助つ人として擁している時は、それなりの結果を出している。組織の課題と同様に、あとは本体の若いエネルギーを投入する時期だ。場所を移した懇親会で、最年長の堀越が、会に先立ち挨拶を述べたが、その際「今年で最後」というフレーズに全員がブイイング。「エルダーでも走り続けて」と即座に取り消されてしまった。

- その通りである。まだまだ頑張らなければならない。しかし、若い血が入らないと車の両輪は回らない。課題は大きく難題であるが、だからこそ燃えるのである。決して夢物語ではない。もうすぐ手に届くところにあるからもうかしい。数年後を見据え、編集部は来年、レース後の強化合宿を検討中だ。敬称略【昌】
- 10月1日付（一般異動）
- 佐藤 光秋さん 須賀川駅 郡山駅